

実践編
(保健学習)

こんな展開はどうですか

小学校第4学年 「育ちゆく体とわたし」(思春期の体の変化)

1. 単元名「育ちゆく体とわたし」

2. 単元の目標

- ・体の発育・発達について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。(思考・判断)
- ・体の年齢に伴う変化や個人差、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

本単元には、学校における性に関する内容が示されている。従って、発達の段階をふまえて指導することが大切となるが、小学校4年生に中学校の内容である月経・精通とホルモンの関係を医学的に説明するなど、その現象が起こる仕組みについて難しく・詳しく説明してしまいがちである。

そこで、本単元では、初経、精通について大人の体に近づく具体的な現象としてとらえさせ、近い将来それらが起こったときに不安にならないよう指導する。さらに、自分の体の変化や個人による発達の違いなどについては、自分のこととして実感させ肯定的にうけとめさせるよう配慮するものとする。

4. 単元計画

	第1時	第2時(本時)	第3時	第4時
主な学習内容・学習活動	体の発育・発達	思春期の体の変化①	思春期の体の変化②	体をよりよく発育・発達させるための生活
	○身長や体重は、年齢に伴って変化すること。 ○体の変化には個人差があること。	○思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。 ○変化の起こり方は、人によって違いがあること。	○思春期には変声や発毛、初経や精通が起こること。 ○思春期には異性への関心も芽生えること。 ○個人差はあるものの大人の体に近づく現象であること。	○体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、運動、休養および睡眠などが必要であること。
	1. 赤ちゃんの頃の写真・服・靴等を見る。 2. 身長伸びを示した紙テープで自分の成長を感じ、グループで比較して話し合う。 3. 身長・体重の平均的なデータを見て、大きく成長する時期があることに気づく。 4. 身長が急に伸びる時期は一人ひとり違うことを知る。 5. 学習のまとめをする。	1. シルエットクイズを行い、年齢や男女の体つきの違いについて考える。 2. 思春期に起こる男女の体つきの変化について、話し合う。 3. データ資料から体の変化が起こる時期については、個人差があることを知る。 4. 成長に関し個人差を感じた体験談を聞く。 5. 学習のまとめをする。	1. 思春期に起こる体の変化を知る。 2. 体の発達が書かれたカードを基に、初経や精通について調べる。 3. 思春期には、初経や精通が起こることを知る。 4. 事例を基に、思春期には、異性への興味を芽生えることを知り、先生方の体験談を聞く。 5. 学習のまとめをする。	1. 給食の献立から、よりよく体を発育・発達させるための調和のとれた食事の必要性に気づく。 2. 運動・睡眠等、よりよく発育・発達させるための生活の仕方について知る。 3. 学習したことを自分の生活と関連づけて考える。 4. 学習のまとめをする。

5. 展開例（2／4時間）

（1）思春期の体の変化①

（2）本時の目標

- ・思春期における体の発育・発達について、資料や友達の話などを基に、特徴を見つけ、それらを説明することができるようにする。（思考・判断）
- ・思春期の体つきの変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりすることができるようにする。（知識・理解）

（3）展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◆評価	資料等
導入 10分	1. シルエットクイズ・後姿クイズを行い、年齢や男女の体つきの違いについて考える。 〈予想される反応〉 ・大人かな？子どもかな？ ・男かな？女かな？	○楽しく学べる雰囲気を作る。 ○シルエットクイズ・後姿のクイズで男女の違いが小学校高学年頃から感じられることを押さえる。	シルエットクイズ 後姿クイズ
展開 30分	2. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">思春期には、男女の体つきがどう変化するのだろうか。</div>		
	3. 思春期に起こる男女の体つきの変化についてグループごとに話し合う。 〈予想される反応〉 ・1年生のころは男女の体つきは、とても似ているね。 ・男子はがっしりした体つきになるよ。 ・女子はふっくらした体つきになるよ。	○資料から大人と思春期に起こる男女の体の変化について気づいたことをグループごとに拡大イラストに直接記入し、まとめさせる。 ◆【思考・判断】 思春期における体の発育・発達について、資料や友達の話などを基に、特徴を見つけ、それらを説明している。（記述や発言） ○話し合っただけの事実を学習カードに記入させる。	大人の男女の体つきの違いについて書き込める拡大イラスト（教科書の拡大コピー）
	4. グループで話し合った結果を発表する。	○黒板に、拡大した資料を掲示し、児童の発言を整理する。	学習カード 黒板掲示用資料
	5. 思春期の体の変化は一人ひとりおこり方が違うことを知る。	○体つきが大人になる時期は、一人ひとり違いがあることを、個人差の資料を提示して説明する。	個人差のグラフとエピソード（教科書の拡大コピー）
まとめ 5分	6. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・体は思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わること。 ・体の発育・発達には、個人差があること。</div>	○学習カードを振り返り、今日学んだことを確認し、感じたことを書き、発表させる。 ◆【知識・理解】 思春期の体つきの変化や個人差について理解したことを言ったり、書いたりしている。（記述や発言）	

(4) 資料等
学習カード

保健 学習カード 「育ちゆく体とわたし」 思春期の変化①

4年 組 番 氏名 _____

1 思春期に起こる男女の体つきの変化について知ろう。

違う変化は何か？同じ変化は何か？

	女性	男性
ちがう変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
同じ変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	

わかったこと

.....

.....

2 学習して、わかったことや、もっと知りたいこと、感想を書こう。



6. 他教科・領域との関連

(1) 特別活動との関連

学校生活において不安等が高まるのは5・6年生の宿泊学習等であろう。養護教諭と連携をとり、女子を中心に月経の手当の仕方やお風呂でのエチケット等を学ぶ時間をとりたい。

(2) 総合的な学習との関連

保健学習での知識を中核とし、「生命」の尊さを考える総合的な学習の時間の単元構成を考えることができる。10歳になるこの時期に、「2分の1成人式」を行う学級もあると思われる。自分史を作成することを通して多くの人に支えられ存在することを理解すると共に、未来に向けて明るい夢と希望を持たせたい。

小学校第5学年 「心の健康」（心の発達）

1. 単元名「心の健康」

2. 単元の目標

- ・心の健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- ・心の発達、心と体の相互の影響、不安や悩みへの対処について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解できるようにする。
(知識・理解)

3. 単元について

児童にとって、「心の健康」の内容は、4年生で学習した「体」の内容に比べて、具体的に捉えづらいと考えられる。そこで誰もが経験しうる具体的な場面を用いて、「心の発達が年齢段階より異なること」「その発達には人との関わり、生活経験、年齢などが関わること」を指導する。さらに、「心と体は相互に影響すること」「不安や悩みは、誰もが経験することであり、適切に対処する必要があること」について指導する。その際は、指導方法についても、たとえばブレインストーミングを効果的に使って意見をできるだけ出し合ったり、事例などを用いた活動を通して意見を発表したりするなど、具体的かつ実感的に学習が進められるように工夫することが大切である。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時（本時）
主な学習内容・学習活動	心の発達 ○心は、家族、同性や異性の友達、地域の人々など、人とのふれあい、あるいは自然とのふれあいなど、いろいろな生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達すること。	心と体の相互の影響 ○不安や緊張時には、動悸が激しくなったり腹痛を起こしたり、体調が悪いときには、集中できなかつたり落ち込んだ気持ちになったりすること。 ○心と体は互いに影響し合っていること。	不安や悩みへの対処 ○不安や悩みがあることは、誰もが経験すること。 ○不安や悩みへの対処には、相談する、遊ぶ、運動するなどいろいろな方法があること。 ○自分に合った方法で対処できること。
	1. いくつかの場面において、幼い頃と現在の5年生について考える。 2. 年齢による感じ方の違いについて教科書や自分の経験を参考にグループで話し合う。 3. 異年齢間で比較し、気が付いたことを発表する。 4. 心が発達する要因について考え学習のまとめをする。	1. 不安や悩みが体に与える影響について考え、グループで話し合う。 2. 体調が心に与える影響について話し合う。 3. 心と体は互いに影響し合っていることを確かめる。 4. 学習のまとめをする。	1. 全国の5年生の悩みと自分の悩みを比較する。 2. 様々な不安や悩みへの対処の仕方について考え、発表し合う。 3. グループで「体ほぐしの運動」を一つ試してみる。 4. 不安や悩みへの自分に合った対処の仕方について考え学習のまとめをする。

5. 展開例（3／3時間）

（1）不安や悩みへの対処

（2）本時の目標

- ・心の健康について学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見つけたりするなどして説明することができるようにする。（思考・判断）
- ・不安や悩みへの対処について理解したことを言ったり、書いたりすることができるようにする。（知識・理解）

（3）展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◆評価	資料等
導入 10分	1. 学習カードで自分の悩みや不安をチェックする。 2. 全国の5年生の悩みと自分の悩みを比較する。 〈予想される反応〉 ・友達についてが一番多い。 ・私と同じだ。	○話しやすい雰囲気づくりをする。 ○学習カードの当てはまる不安や悩みをチェックさせる。 ○全国の5年生の悩みについての資料を提示し、同じようなことで悩んでいることを確認する。 ○悩むことは悪いことではなく、成長するために必要であることを確認する。	学習カード 資料1 どんなことで悩んだか（統計資料）
展開 30分	3. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">悩みがある時には、どうすればいいのだろう。</div> 4. 悩みを抱えた時、どのようにすればよいか考え、自分の実践やアイデアを付箋に書いた後、グループで一枚の紙に分類し、まとめる。 5. 模造紙を見ながら、質問したりエピソードを話したりする。 〈予想される反応〉 ・悪口を言われたときに思い切って先生に相談したらアドバイスしてもらえたよ。 6. グループで「体ほぐしの運動」を一つ試してみる。	○自分がどんなことを実践しているかを付箋1枚につき一つ記入させる。 ○思いつく限り書くように助言する。 ○やったことはないが、実践してみたいというアイデアは違う色の付箋に記入させる。 ○各自の付箋を、似たものごとに分けて模造紙に貼らせる。 ○自由に質問し合ったり、エピソードを話し合ったりさせる。 ◆【思考・判断】 心の健康について学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見つけたりするなどして説明している（記述・発言） ○「体ほぐしの運動」を紹介し、実際にやってみるように伝える。	付箋2色 模造紙
まとめ 5分	7. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・不安や悩みの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。</div>	○学習カードに分かったことや感想を記入させる。 ◆【知識・理解】 不安や悩みへの対処について理解したことを言ったり、書いたりしている。（記述・発言） ○悩んだときに、相談機関を利用するのはよい対策であるが、SNSで、知らない人に気軽に相談するのは気をつける必要があることを伝える。	

(4) 資料等
学習カード

保健 学習カード 「心の健康」 不安や悩みへの対処

5年 組 番 氏名 _____

1 どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
あてはまるところに〇をつけましょう。


	とても感じる	少し感じる	あまりかんじない	まったく感じない
勉強や進学のこと				
友だちのこと				
性格のこと				
お金のこと				
健康のこと				
家族のこと				
容姿のこと				
異性のこと				
その他 (どんなことが書いてね)				

*友だちの発表を聞いたり、教科書等の資料をみたりしてわかったことを書きましょう。

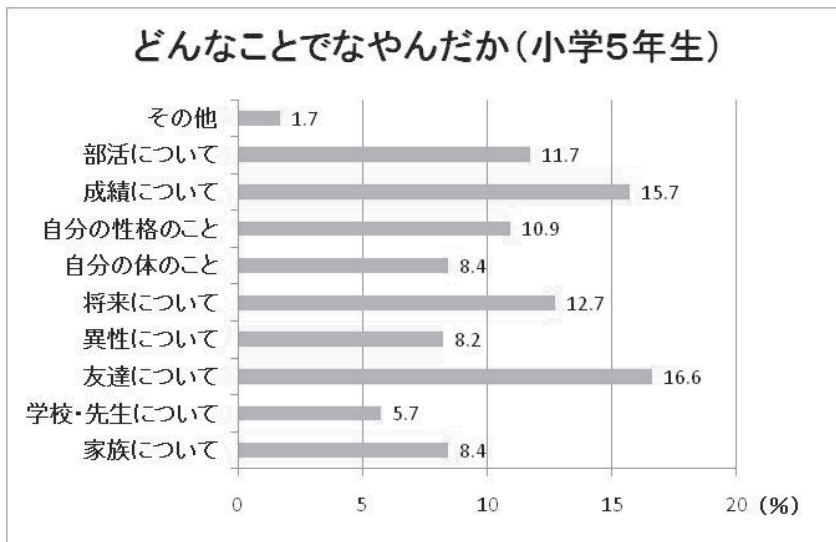
.....

2 不安や悩みをかかえたときはどうすればよいのでしょうか。みんなと考えよう。

3 学習してわかったことや、もっと知りたいこと、感想を書こう。



資料 1



（全国養護教諭連絡協議会 2006 年度『児童生徒の心身の健康に関する調査』）

実施例『王様を守れ』



- ①グループ（5・6人）で王様と鬼一人ずつを決める。
- ②王様を最後尾にして、ジェンカのように縦一列に並び、前の人の肩に手を置く。（鬼以外）
- ③鬼は最後尾の王様にタッチする。王様を守るために、仲間でまとまって動く。
- ④タッチしたらそれぞれが逃げ、鬼の「ストップ」で止まり、5歩でタッチした人が鬼になる。
- ⑤感想を発表し、友達の活躍や心地よさを共有していく。

【参考】文部科学省「まるわかりハンドブック（高学年向け）」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/07/06/1308040_02.pdf（参照 2014-1-20）

6. 他教科・領域との関連

（1）特別活動との関連

高学年になり、人間関係に悩む児童が増えてくる時期であると考えられる。保健学習の「心の健康」は、心の発達と年齢、体験、学習との関わりについて、特別活動と関連づけて指導できる。特に学級活動では、学習を通して望ましい人間関係の形成が目指されている。コミュニケーションスキルの学習や自己肯定感を高めること、心の開放などを目的としたエンカウンター等の活動に結び付けることができそうである。

（2）総合的な学習の時間との関連

総合的な学習の時間には、問題解決的な活動、他者との協働的な学習、体験活動の重視などの特徴がある。例えば、「情報」を学習テーマとした場合、インターネット等を活用して身の回りの「情報」にかかわる問題について調べるという取組が考えられる。メールやSNSなど、顔を合わせないコミュニケーションの危うさについて学習していくこともできそうである。

中学校第1学年 「心身の発達と心の健康」（性機能の発達）

1. 単元名「性機能の発達」

2. 単元の目標

- ・性機能の発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・性機能の発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- ・生殖にかかわる機能の成熟について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 単元について

二次性徴が発現し、初経や精通を経験するようになると、性を意識するようになり、性や異性に対する関心が高まる。性と向き合うということは、まず自分の体とその変化を受け止めることである。そして仲間とより良い関係をつくっていくためには、同性だけでなく異性の体や心についても理解することが大切である。

思春期の心の変化への対応についてメディアリテラシーを取り入れ、メディアに対して自律的な関わり方を身につける初期の段階として活用したい。単に批判するだけでなく、情報化社会を生きる子どもたちに、多面的な見方ができる力をつけていくことが必要である。その中で、必要に応じて事例などを用いたディスカッションやブレインストーミングなどを取り入れ、相互の意見をよく聞き認めるなかで思考力・判断力を育成していきたい。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時（本時）
主な学習内容・学習活動	性機能の成熟1	性機能の成熟2	性情報とどう向き合うか
	○思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達すること。	○思春期になると、男子では射精がみられ、女子では月経が見られ、妊娠が可能となること。	○異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となること。
	1. 思春期に男女それぞれにどのような変化が起こるのか確認する。 2. 体の変化が起こる仕組みについて性腺刺激ホルモンの働きについて説明を聞く。 3. 教科書の資料から排卵と月経の仕組みについてわかったことを整理する。 4. グループで月経周期から、排卵日を予想し発表する。 5. 月経周期、経血の色、経血量、月経期間には個人差があることを知り、学習のまとめをする。	1. 資料から、性腺刺激ホルモンの作用によってつくられた精子が射精される仕組みについてまとめる。 2. 話し合いにより、射精は、排卵や月経と違って周期的なものではなく、心身の性的な興奮や刺激によって起こることに気付く。 3. 教科書の資料から、受精と妊娠についてまとめる。 4. グループで排卵や月経、射精が起こるようになったということはどういうことを意味しているのか考える。	1. 「性的なことに関心を持った経験」のグラフからわかることを出し合う。 2. 性の情報はどこから得ているか資料から読み取れる実態を発表する。 3. 性被害の事例についてグループごとにいくつかの問題について話し合う。 4. グループで出された意見を発表し、観点ごとに整理する。 5. 性情報などに対し適切に対応するためにはどうしたらよいか、わかったことをまとめる。

5. 展開例（3／3時間）

（1）性情報とどう向き合うか

（2）本時の目標

- ・思春期には、心身の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要になることについて、資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりして、それらを説明することができるようにする。（思考・判断）

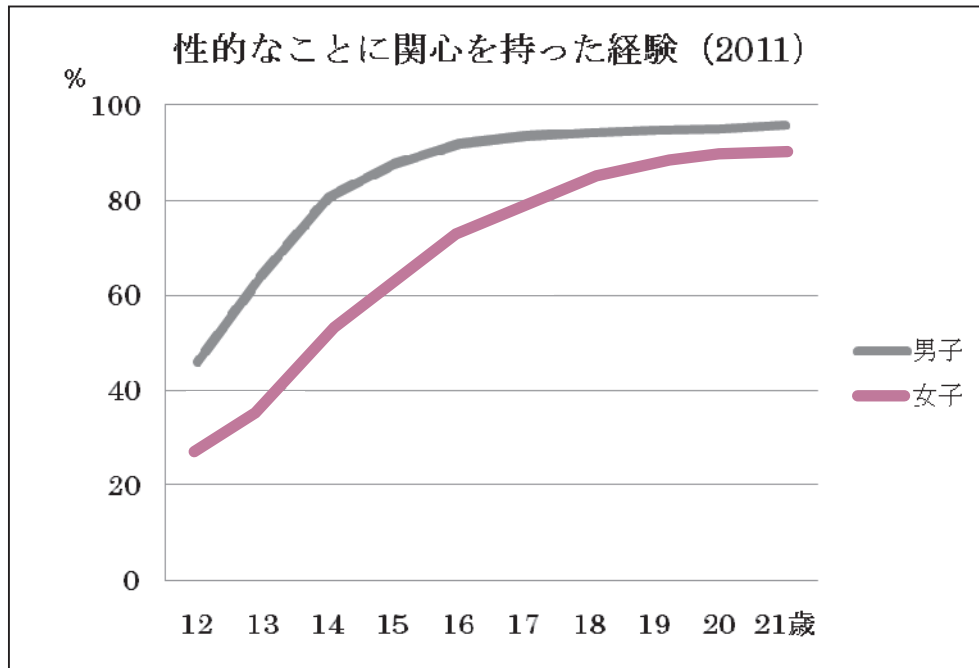
（3）展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◆評価	資料等
導入 10分	1. 「性的なことに興味を持った経験」のグラフからわかることを出し合う。 〈予想される反応〉 ・年齢が増えるとともに性的な関心が高まっている。 ・女子よりも男子の方が性的なことに関心が高い。	○思春期の頃は、性のことや異性への関心が高まる時期であり、性的欲求が強くなったり、特定のひとと親しくしたいという感情が生まれてきたりすることを知らせる。 ○関心が高まる思春期に気をつけなければならないこともあることを押さえる。	資料1 性的なことに興味を持った経験
展開 35分	2. 学習のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">性への関心が高まる思春期に気をつけなくてはいけないことを考えよう。</div>		
	3. 性の情報はどこから得ているか資料から読み取れる実態を発表する。 4. 性被害の事例についてグループで話し合う。 〈予想される反応〉 ・B子は女子中学生ではなかったんだね。 ・裸の写真を送らせるために女子中学生になりすましたんだね。 ・インターネットだと、相手が誰なのか分からないから気をつけないといけないね。	○性に関する知識をどこから得ているのか、を示す資料を提示し、読み取れることを発表させる。 ○性被害の事例を提示し、事件の概要を説明する。 ○学習カードを使って、グループで加害者、被害者の目的を考え、被害にあわないためにどう行動していけばよいのか考えさせる。 ◆【思考・判断】 思春期には、心身の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要になることについて、資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりして、それらを説明しようとしている。（記述や発言）	資料2 性に関する知識をどこから得ているか 資料3 SNSやゲームサイトで知り合った人からの誘い
	5. インターネットやSNSから得られる性情報の危険性について知る。	○性情報には正しくないものや意図的に操作されているものが含まれていることを伝える。	学習カード
まとめ 5分	6. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・思春期には、心身の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要になること。</div>	○学習カードに本時に学んだことや考えたことを書かせ、発表させる。	

（4）資料等

資料1

【参考】日本性教育協会編(2013)『「若者の性」白書－第7回青少年の性行動全国調査報告－』，小学館



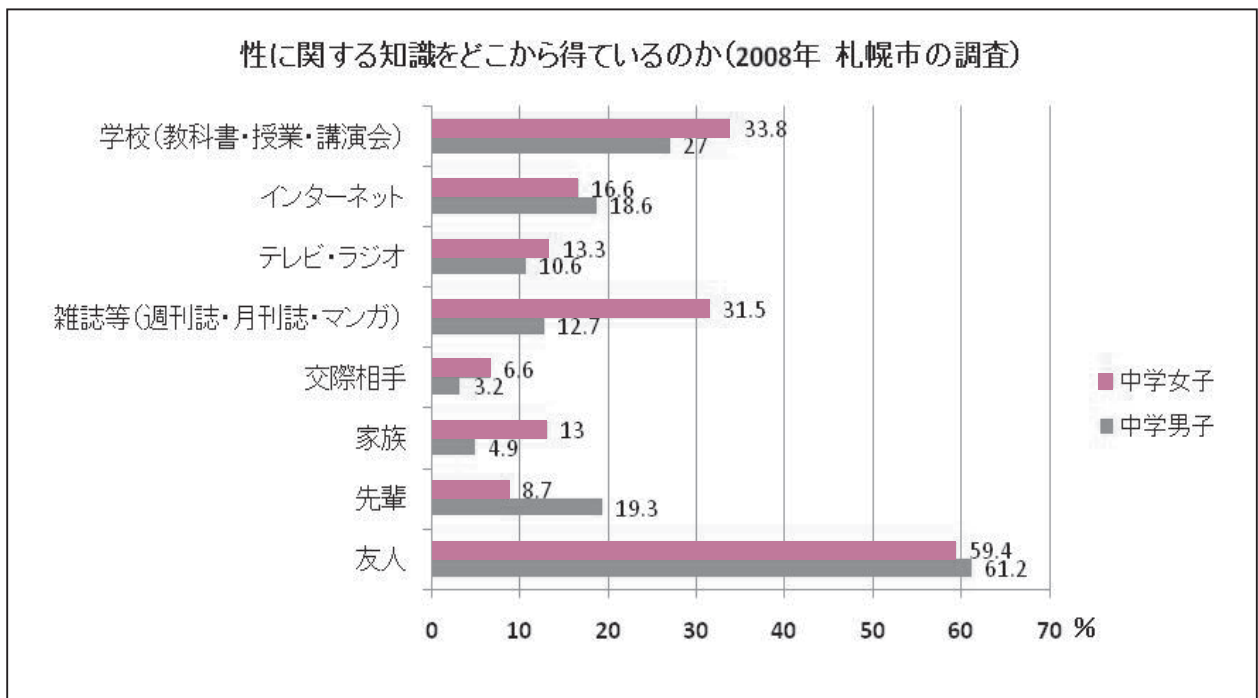
(全国調査基礎集計表より作成)

資料2

【参考】札幌市教育委員会「中・高校生性の性に関する調査」

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sidou/seikyoiku/guide/documents/seityosa.pdf>

(参照 2014- 1-20)



(札幌市教育委員会の資料より作成)

資料3

【参考】総務省「インターネットトラブル事例集」（平成24年度版）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

（参照 2014-1-20）

SNSで知り合った人からの脅迫

中学2年生のAさん（女子）は、SNSで知り合った女子中学生Bさんとメル友になりました。メールのやり取りを続けるうちに、互いに友達と写っている写真を見せあうようになりました。

ある日、メル友Bさんが体のことで悩んでいるからと、裸の写真を送ってきて、Aさんにも裸の写真を送るように言ってきました。



最初は戸惑いましたが、相手を信用して送ってしまったところ、とたんにBさんの態度が変わり、「言うことを聞かないと、インターネット上に写真を載せるぞ。」と脅迫されるようになりました。

実際には、Aさんのメル友のBさんは女子中学生でなく、成人男性でした。



総務省「インターネットトラブル事例集」（平成24年度版）より作成

学習カード

中学校保健体育

1年 組 番 氏名 ()

情報とどう向き合うのか

★「SNS やゲームサイトで知り合った人からの誘い」をグループで話し合ってみよう。

1 B子がA子さんとメル友になった目的はなにか。

2 A子さんがB子とメル友になった目的はなにか。

3 A子さんが被害にあったのはなぜか。

4 A子さんはどうしたら被害にあわずにすんだか。

★今日の授業を通して、わたしたちの周りにはある情報にまどわされないようにするためには、どうしたらよいか自分の考えをまとめよう。

6. 他教科・領域との関連

(1) 特別活動との関連

性情報には営利を目的とした企業が意図的に誇張・歪曲化した間違った情報があり、性情報を正しく選択し、賢い行動を自己決定できるように特別活動での指導につなげていく。

(2) 道徳との関連

社会の状況は、青少年の成長に必ずしも好ましい状況にはない。異性の特性や違いをきちんと受け止め、相手の人格を尊ぶ姿勢を育成したい。

1. 単元名「感染症の予防」

2. 単元の目標

- ・感染症の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・感染症の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- ・感染症の発生要因や予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解できるようにする。
(知識・理解)

3. 単元について

近年、世界的に若者のエイズをはじめとする性感染症の増加が社会問題になっており、日本においても増加傾向である。その理由として、若者の性的接触の低年齢化やネットワーク化が考えられている。一方、若者の性感染症に関する知識、理解が十分でないことが様々な調査結果から報告されている。中学生の時期に性感染症の疾病概念、感染経路、予防方法などの知識を身に付けることが性感染症から身を守る一歩と考えられる。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時(本時)	第4時
主な学習内容・学習活動	感染症の原因	感染症の予防	性感染症の特徴、感染経路・予防法	エイズの疾病概念
	○感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる病気であり、適切な対策を講ずることにより予防できること。	○感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすことや、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫をつけたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であること。	○性感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。 ○予防するには性的接触をしないなどの方法があること。	○エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス(HIV)であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと等が有効であること。
	1. インフルエンザが冬に流行するのはなぜか考える。 2. 感染症はどのような時期や状態に発生しやすいかまとめる。 3. 感染症を予防するための対策をグループでまとめる。	1. どのような仕組みで体を守っているのか資料をもとに調べる。 2. 抵抗力を高めるために毎日の生活の中で実行できそうなことを考える。 3. 近年問題になっている感染症について調べる。	1. 性感染症とはどのような病気か予想する。 2. 性感染症の種類と特徴について知る。 3. 性感染症の現状についてグループで考える。 4. 性感染症を予防するにはどうすればよいか考える。	1. エイズの疾病概念と感染経路について調べる。 2. HIVの感染予防について考える。 3. 検査を受けることを怖がっている意見について自分の考えをまとめる。

5. 展開例（3／4時間）

（1）性感染症の特徴、感染経路・予防法

（2）本時の目標

- ・性感染症の予防について、科学的根拠に基づいて予想したり、整理したりすることができるようにする。 （思考・判断）
- ・性感染症の原因や予防方法について、具体例やその理由を言ったり、書き出したりすることができるようにする。 （知識・理解）

（3）展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点	◆評価	資料等
導入 10分	1. 性感染症がどのような病気か予想する。 〈予想される反応〉 ・エイズは聞いたことがある。	○性感染症について知っていることを発表させる。 ○本時は、エイズ以外の性感染症について学習することを伝える。		
展開 35分	2. 学習のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">エイズ以外の性感染症は、なぜ感染し、どうしたら予防法できるのだろうか。</div>			
	3. 性感染症の種類と特徴について知る。	○性感染症についてまとめたプリントを配布し、主な性感染症の症状や特徴などを確認する。 ○性的接触が感染経路となりやすい理由を説明する。		資料1 主な性感染症 学習カード
	4. 性感染症の現状について気づいたことを発表する。	○年齢別発生数のグラフを提示し気づいたことを発表させる。		資料2 年齢層別発生数
	5. 性感染症を予防するにはどうすればよいかグループで考える。 〈予想される反応〉 ・いろいろな人との性的接触を避けることが大切だね。 ・コンドームを正しく使うことが必要だと思う。 ・感染の不安がある時は、男女ともに医療機関等で検査や治療を受けることが大切だね。	○性感染症が性的接触により起こる病気であることを確認しながら、予防の手立てについて考えさせる。 ◆【思考・判断】 性感染症の予防について、科学的根拠に基づいて予想したり、整理したりしている。（記述や発言） ○受診する診療科の違いについて補足説明する。（男性：泌尿器科 女性：産婦人科・婦人科）		
まとめ 5分	6. 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。 ・予防するには性的接触をしないなどの方法があること。 </div>	○学習カードに本時に学んだことを書かせ発表させる。 ◆【知識・理解】 性感染症の原因や予防方法について、具体例やその理由を言ったり、書き出したりしている。（記述や発言）		

(4) 資料等

資料1

【参考】長野県ホームページ「健康・福祉 HIV・エイズ以外の性感染症」
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kenko-choju/kenko/kenko/kansensho/aids/jokyo.html>

(参照 2014-1-10)

病名と男女別の症状

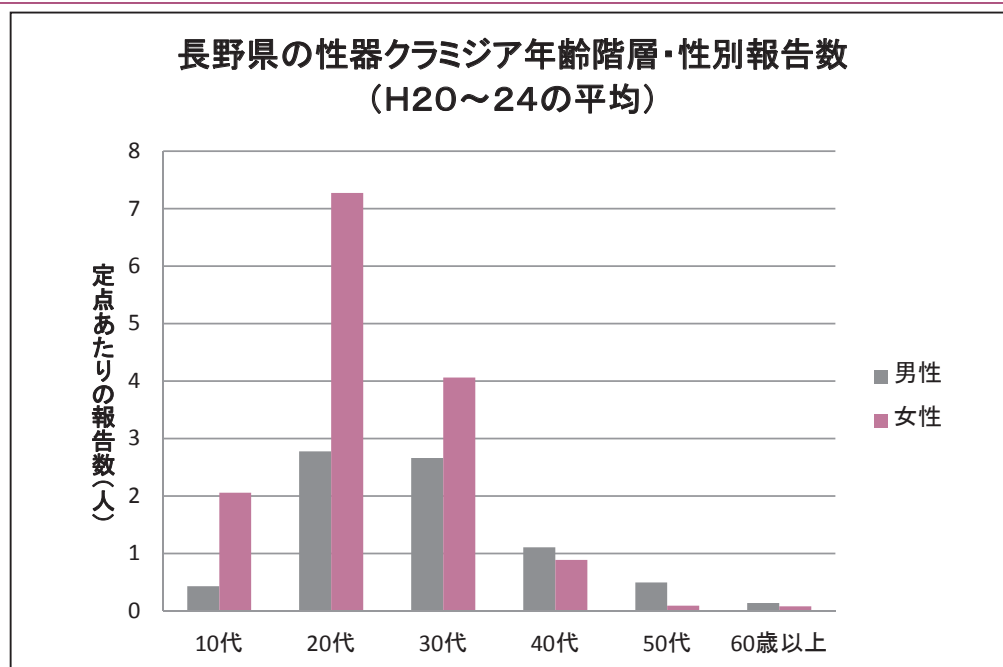
病名	男性の症状	女性の症状
性器クラミジア	尿道口からの異常分泌液があり、頻尿、排尿痛があります。	悪臭を伴うおりものや下腹部痛があります。放置すると、不妊症、子宮外妊娠の原因となります。
りん菌感染症	尿道に感染し、かゆみ、排尿時に粘りのある分泌物がでます。黄色のうみ、排尿痛がある時はさらに病状が進んだ状態です。	おりものが多くなる程度で、症状は軽い。放置すると、卵管、卵巣、骨盤内に広がり、骨盤内感染症を起こします。
性器ヘルペス	ペニスの包皮や亀頭などに複数の細かい水疱が出ます。痛みを伴います。	外陰部に複数の水疱ができ、後に潰瘍となり、痛みや発熱を伴います。
尖圭コンジローマ	性器周辺や肛門周辺にイボ状の小さい腫瘍が多発します。	同左

長野県健康長寿課資料より作成

資料2

【参考】長野県健康長寿課作成パンフレット「高校生のためのエイズ読本」

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kenko-choju/kenko/kenko/kansensho/aids/shiryo.html>(参照 2014-2-10)



学習カード

中学校保健体育	3年 組 番 氏名（ ）
性感染症の予防	
1 資料1を見て気づいたことを書こう。	
2 資料2を見て気づいたことを書こう。	
3 性感染症を予防する方法を考えよう。	
★今日の授業を通して、今後の自分の行動について考えたことを書こう。	

6. 他教科・領域との関連

(1) 特別活動との関連

特別活動においては、妊娠・出産・育児など、性にかかわる自分の今後のライフプランを設定する指導につなげていきたい。

(2) 理科との関連

3学年で、受精による生殖の方法を学習する。1学年の保健体育（性機能の発達）で学習した内容を想起させつつ、生殖の方法について理解させたい。

1. 単元名「性感染症・エイズとその予防」

2. 単元の目標

- ・エイズをはじめとする性感染症について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・エイズをはじめとする性感染症にかかわる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。(思考・判断)
- ・エイズをはじめとする性感染症の予防には、社会的対策とともに個人の適切な行動選択が必要であることについて、理解できるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

「エイズ」については、中学校までの保健学習にも扱われており、また、保健以外でも、生徒はさまざまなルートから知識を得ている。その中で重要なのは、エイズについて、どれだけ自分と結びつけて考えられるようになるかということである。自分も無関係ではいられないというエイズをめぐる状況について理解し、具体的な対策を考えられるようになることが大切である。

4. 単元計画

	第1時	第2時(本時)
主な学習内容・学習活動	感染症とその予防	性感染症・エイズとその予防
	<p>○結核などの感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること。</p> <p>○交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られること。</p> <p>○感染症の予防には、社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること。</p>	<p>○エイズなどの性感染症は性行為によって感染すること。</p> <p>○これらの性感染症の予防には、国による発生状況の調査や保健所におけるHIV抗体検査などの社会的な対策が必要であること。</p> <p>○これらの性感染症の予防には、コンドームを正しく使い感染を防止したり、感染が疑われる場合、早期にHIV抗体検査を受けたりするなどの個人の取組が必要であること。</p>
	<p>1. グループ(4人程度)で、腸管出血性大腸菌感染症について、できるだけ多く書き出す。</p> <p>2. 感染症問題の変化と再興感染症の説明を聞く。</p> <p>3. 新興感染症について説明を聞き、知っているものがあるか考え、発表する。</p> <p>4. 感染症の予防対策について、個人として自己を感染症から守り、二次感染を防止するにはどうしたらよいか、考える。</p>	<p>1. グラフから日本や世界のエイズ患者数の動向を読み取る。</p> <p>2. エイズの個人的な予防について考え、学習カードに記入する。</p> <p>3. エイズの社会的な予防についてグループ(4人程度)で考える。</p> <p>4. エイズ以外の性感染症について知る。</p>

5. 展開例（2／2時間）

（1）性感染症・エイズとその予防

（2）本時の目標

- ・エイズの予防について、資料を分析したり評価したりして、社会的対策を考え説明することができるようにする。（思考・判断）
- ・エイズをはじめとする性感染症の予防には、社会的な対策とともに個人の取組が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりできるようにする。（知識・理解）

（3）展開

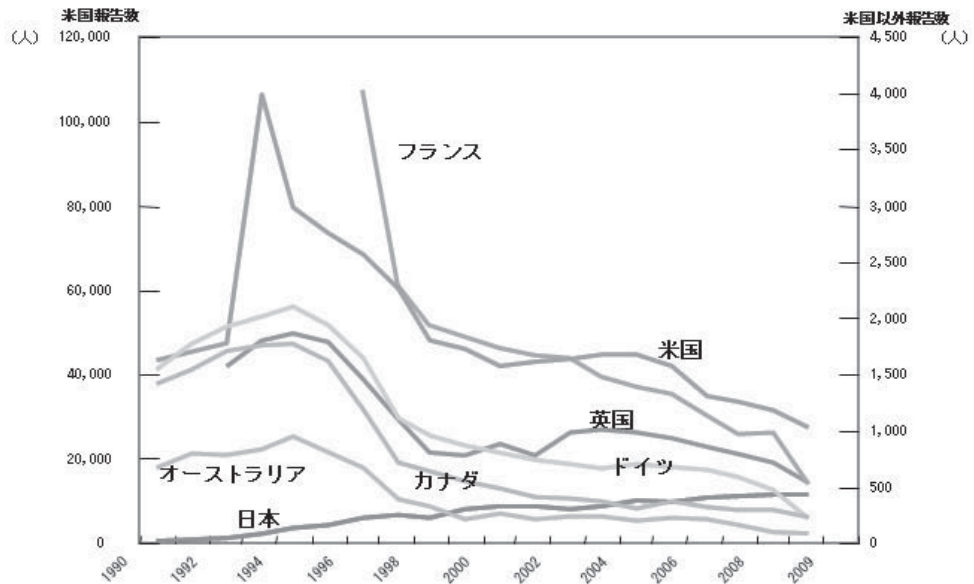
	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点	◆評価	資料等
導入 10分	1. 資料を見て読み取れることを話し合う。 〈予想される反応〉 ・先進国の中で日本だけ増えている。 ・どうして増えているのだろう。	○資料1を提示し読み取れることを学習カードに記入させる。 ○気づいたことや疑問に思ったことを発表させる。		資料1 主要先進国におけるAIDS患者報告数の動向 学習カード
展開 30分	2. 学習のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">エイズを予防するためにはどうしたらいいのだろうか。</div> 3. エイズに対する個人の取組を確認する。 〈予想される反応〉 ・感染の可能性のある人との性行為を避ける。 ・コンドームを確実に使用する。 4. 社会全体として取り組む対策をグループで考える。 〈予想される反応〉 ・検査件数が減っている。 ・エイズに対する関心が下がっているのかな。 ・検査代わりに献血をするのはやめないといけない。 ・検査体制をもっと整備しないといけない。 5. グループで考えた対策を発表する。	○自分自身ができるエイズ対策にはどのようなものがあるか質問する。 ○中学での学習を想起するよう助言する。 ○資料2を提示し、無料検査・相談の実施などの取り組みを紹介する。 ○社会全体として取り組むべき対策をグループで考えさせる。 ◆【思考・判断】 エイズの予防について、資料を分析したり、評価したりして、社会的対策を考えている。（記述や発言）		資料2 保健所等におけるHIV抗体検査・相談件数の年次推移 資料3 社会状況のまとめ
まとめ 10分	6. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・エイズをはじめとする性感染症の予防には、社会的な対策とともに、個人の取組が必要であること。</div>	○本時学んだことや感想を学習カードに記入させる。 ◆【知識・理解】 エイズをはじめとする性感染症の予防には、社会的な対策とともに個人の取組が必要であることについて理解している。（記述や発言）		

(4) 資料等

【参考】厚生労働省科学研究エイズ対策事業研究班による調査
<http://www.aidssti.com/database.html> (参照 2014-1-22)

資料1

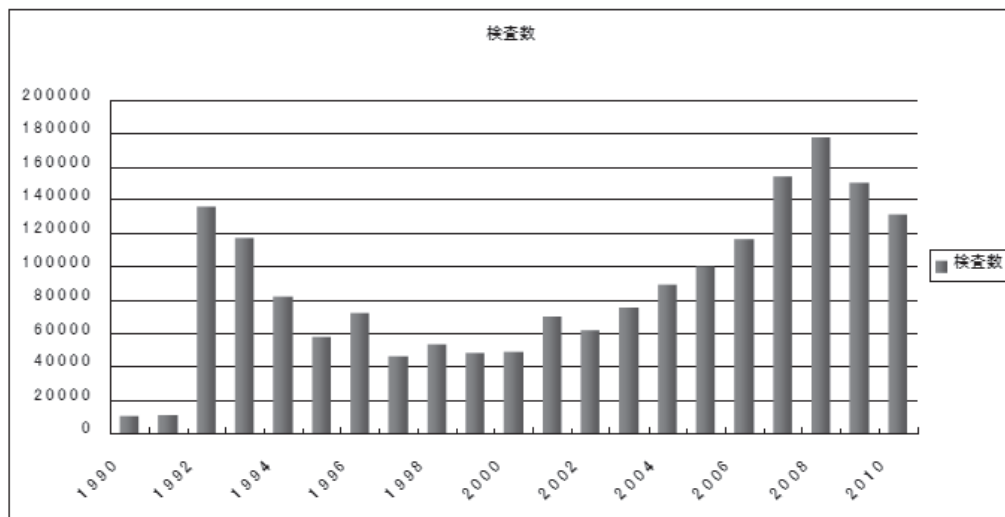
主要先進国におけるAIDS患者報告数の動向



厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「国内外のHIV感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究班」
 (主任研究者:木原正博)

資料2

保健所等における HIV検査・相談件数の年次推移



厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「国内外のHIV感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究班」
 (主任研究者:木原正博)

学習カード

ワークシート

年 組 名前 _____

エイズをはじめとする性感染症について考えてみよう。

問1、資料1を見て読み取れることを書きましょう。

問2、エイズに対する個人の取組を書きましょう。

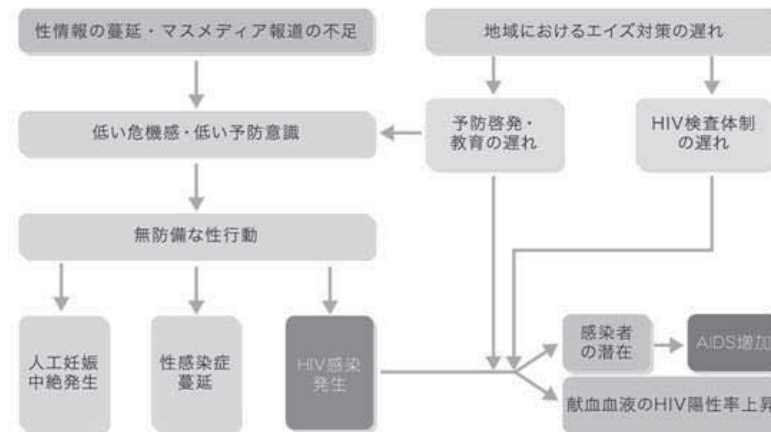
問3、社会全体として取り組む対策をグループで考えましょう。

課題

対策

分かったことや感想を書きましょう。

わが国のエイズに関連する社会状況のまとめ



2007年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究班」
 (主任研究者：木原正博)

6. 他教科・領域との関連

(1) 特別活動との関連

本時では、性感染症・エイズ予防について、正しい知識を身につけることが重要である。そして、ここでの学習を踏まえて、特別活動においては、「性行為をしない」や「安全な性行為を心がける」だけでなく、「リスクを考えて、責任ある行動をとる」「自分の体は自分で守る」「相手と安全な性行為ができるよう話し合える関係づくりが必要である」などについて、より具体的な目標設定をし実践できるようにすることが大切である。

(2) 生物基礎との関連

体内の環境を守る仕組みとして免疫システムを学習する。HIVに感染すると、なぜ免疫力が低下しエイズを発症するのか、発展的に学習させたい。

高等学校第2学年 「生涯を通じる健康」（結婚生活と健康）

1. 単元名「結婚生活と健康」

2. 単元の目標

- ・思春期から結婚生活における健康に関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。（関心・意欲・態度）
- ・思春期から結婚生活における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。（思考・判断）
- ・思春期から結婚生活における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解できるようにする。（知識・理解）

3. 単元について

少子化およびその背景にある未婚者の増加や晩婚化が進む中、高校生にとって、結婚をすることや自分の子どもを持つことはまだまだ先のことと感じているかもしれない。しかし、自分の結婚について展望し、それが自分や家族の健康にどのようなにかかわるかについて学ぶことは重要なことである。健康な結婚生活を営むためには、社会的自立・精神面の発達・性機能の成熟など、さまざまな条件が整うことが必要であることを理解させたい。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時（本時）
主な学習内容・学習活動	思春期と健康	性への関心・欲求と性行動	妊娠・出産と健康	避妊法と人工妊娠中絶	結婚生活と健康
	○思春期には生殖器が発達すること。 ○思春期には不安や悩みが多いこと。	○性意識には男女差があること。 ○不正確な情報に惑わされないこと。	○母体の健康を維持すること。 ○母子保健サービスを活用すること。	○安全で確実な避妊法を選ぶ必要があること。 ○人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担となること。	○高齢出産では、死産など、出産に伴うリスクが高まること。
	1. 思春期における男女の体の変化について話し合う。 2. 思春期の無理なダイエットが身体に及ぼす影響について考える。 3. 思春期の心理的特徴について考える。 4. 思春期には性機能が発達し、思い悩む時期であることを知る。	1. 男女の性意識の高まりや性的欲求の違いを知る。 2. 性情報の目的や信頼性について考える。 3. 事例から「A子」の行動について、グループで話し合い意見を発表する。 4. 性にかかわる意志決定や行動選択を考える。	1. 受精・妊娠の成立を理解する。 2. 胎児の成長過程や出産についてまとめる。 3. 妊娠中の健康管理の大切さについて話し合う。 4. 母子の健康を維持するには、家族や周囲の人たちの温かい思いやりや協力が大切であることを理解する。	1. コンドームなどの避妊法について知る。 2. 手記をもとに自分の考えをまとめ、発表する。 3. 人工妊娠中絶の問題点について、グループで話し合う。 4. 男女が正しい避妊法や、お互いに協力することの大切さを理解する。	1. 晩婚化の理由について考える。 2. 資料から高齢出産のリスクについて考える。 3. 妊娠・出産適齢を理解する。

5. 展開例（5／5時間）

（1）結婚生活と健康

（2）本時の目標

- ・結婚生活を健康的に送るために必要な行動を総合的に考え、判断し、説明することができるようにする。（思考・判断）
- ・高齢出産では、死産など、出産に伴う健康リスクが高まることについて理解したことを発言したり記述したりできるようにする。（知識・理解）

（3）展開

	主な学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◆評価	資料等
導入 10分	1. 結婚に対する希望について意見を言う。 〈予想される反応〉 ・25歳くらい。 ・結婚はしない。 2. 晩婚化の実態について知る。 〈予想される反応〉 ・結婚が遅くなっている。 ・遅くなると健康に対する影響があるのかな。	○何歳ぐらいで結婚しようと考えているか質問する。 ○法律で結婚が認められている年齢について説明する。 ○資料を提示し、晩婚化の実態について説明する。	学習カード 資料1 晩婚化の実態
展開 30分	3. 学習のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 晩婚化の理由や、健康に与える影響について考えよう。 </div> 4. 晩婚化の理由についてグループごとに考える。 〈予想される反応〉 ・経済的な問題かな。 ・高学歴化の問題もある。 ・働きやすい環境が大切だと思う。 5. 晩婚化が健康に与える影響についてグループで考える。 〈予想される反応〉 ・流産の危険性が高くなる。 ・妊娠しにくくなる。 ・20代で出産するのが安全みたいだね。	○グループをつくり、晩婚化の理由について思いついた内容を付箋に書き、画用紙等に貼らせる。 ○各自の内容をグループ内で発表し、内容別に付箋をまとめる。 ○資料2・3を提示し、どのようなリスクがあるか、考えさせる。 ○出産適齢があることに気づかせる。 ◆【思考・判断】 結婚生活を健康的に送るために必要な行動を総合的に考え、判断し、説明している。（記述や発言）	資料2 自然死産率 資料3 年齢別妊娠までにかかった期間
まとめ 10分	6. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・高齢出産では、死産など、出産に伴う健康リスクが高まること。 </div>	○本時、学習したことや思ったことを学習カードに記入する。 ◆【知識・理解】 高齢出産では、死産など、出産に伴う健康リスクが高まることを理解している。（記述や発言）	

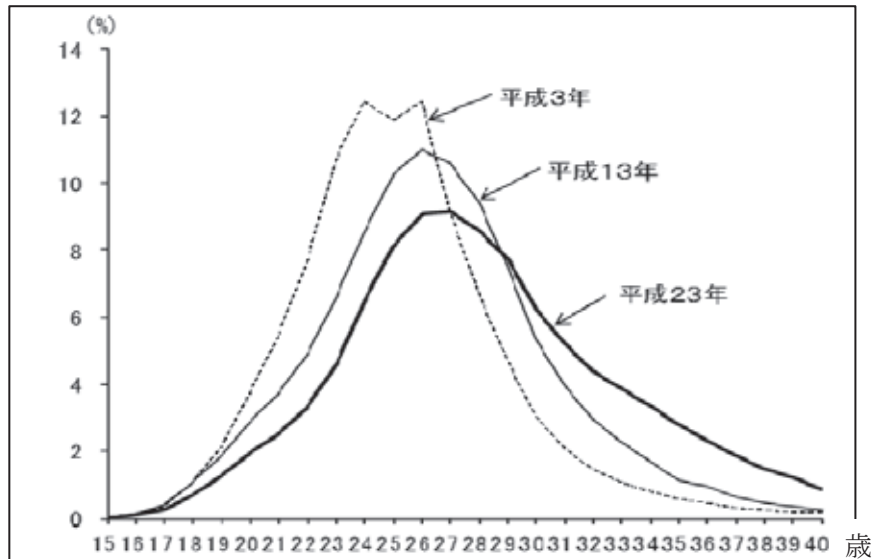
(4) 資料等

資料1

【参考】厚生労働省「平成23年人口動態統計月報年計（概数）の概況：結果の概要 4 婚姻」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai11/kekka04.html>

（参照 2014-1-8）

初婚の妻の年齢（各歳）別婚姻件数の割合

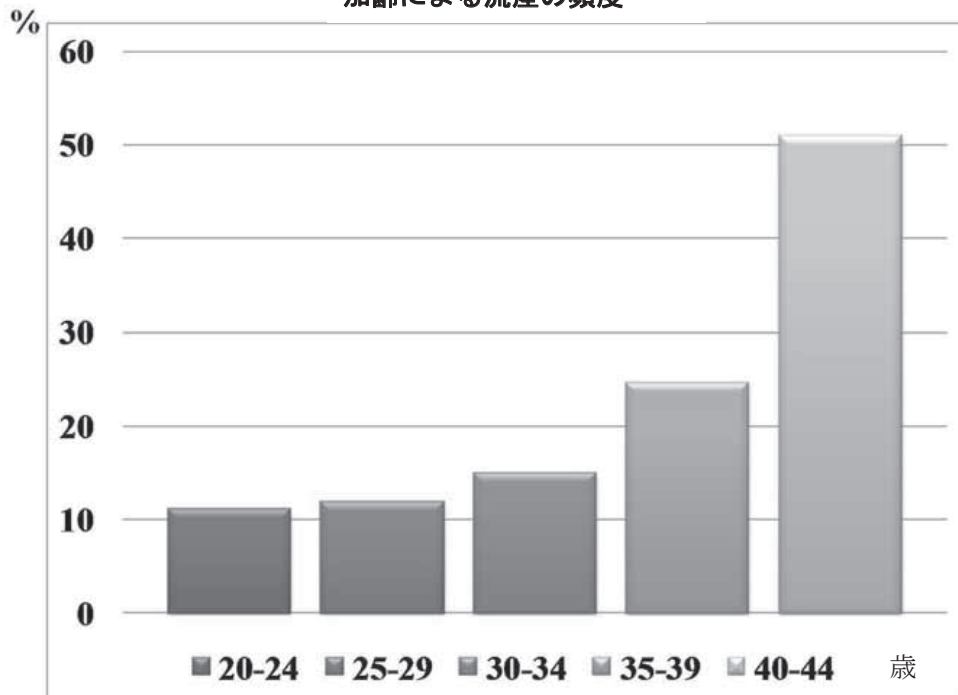


資料2

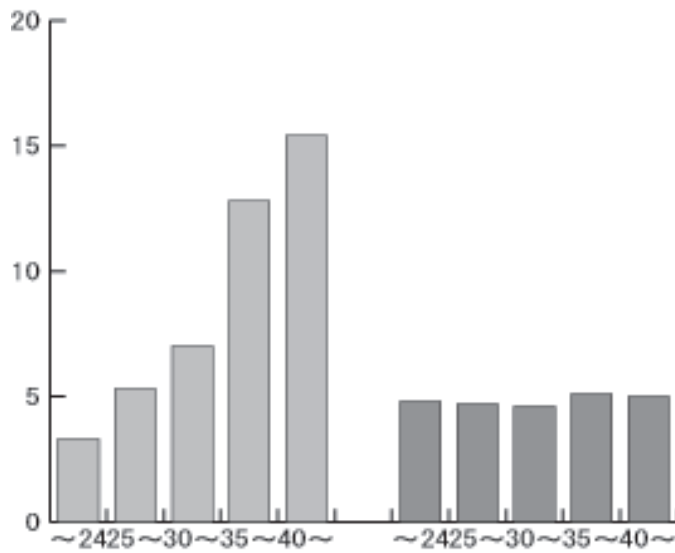
【参考】日本生殖医学会「一般のみなさまへ 不妊症Q & A」

http://www.jsrm.or.jp/public/fuinsho_qa19.html （参照 2014-1-08）

加齢による流産の頻度



資料3



縦軸が妊娠までに要した期間 (ヶ月)。
左が女性 右が男性

出典
堤 治『生殖医療のすべて』
丸善出版 (2002)

学習カード

ワークシート		年 組 名前 _____
結婚について考えてみよう。		
問1、あなたは結婚しようと思う？思わない？		
結婚を考えている場合 年齢 才	結婚を考えていない場合 その理由	
問2、法律で結婚が認められている年齢は何才ですか。		
男性 才	女性 才	
問3、晩婚化の理由についてどのように考えますか。		
理由		
問4、資料2・3を参考に、晩婚化が健康に与える影響について考えましょう。		
影響		
分かったことや感想を書きましょう。		

6. 他教科・領域との関連

（1）特別活動との関連

本時では、少子化・晩婚化が進む中、結婚時期と合わせて出産適齢期について学ぶことが大切である。そして、ここでの学習を踏まえて、特別活動においては、いつごろ結婚して出産期を迎えたらよいのかなどの、自分の人生計画を立てられるような内容が効果的であると考えられる。

（2）家庭基礎との関連

「青年期の自立と家族」の単元の中で、家庭男女が協力して、家族の一員として役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えさせたい。その中で、現在初婚年齢が上昇し、生涯未婚率の割合が増える傾向にあることや、その要因として、共働きの家庭が増加し、結婚に対する価値観が変化したことがあげられることに触れたい。

